

2026年3月期第2四半期 決算説明資料

ヘリオス テクノ ホールディング株式会社
スタンダード市場(証券コード:6927) | 11月20日

Helios Techno





INDEX

- 01 当社グループ概要と事業領域
- 02 2026年3月期第2四半期決算概要
- 03 2026年3月期業績予想
- 04 今後の成長戦略



01 当社グループ概要と事業領域

02

03

04

MISSION

高付加価値な製品・サービスの提供を通じて、
人びとの暮らしを豊かにする

VISION

- 持続的成長力のある研究開発型の会社を目指す
- オープンな企業経営を強く意識し、全てのステークホルダーに報いる開かれた会社を目指す
- 従業員が健康で、意欲的に仕事に取り組める会社をつくる

VALUE

HIGH QUALITY (高品質)

ENGAGE ALL STAKEHOLDERS

(全てのステークホルダーのために)

LITERACY & INNOVATION (学びと創造)

OPEN COMPANY (透明性)

SUSTAINABLE STRIDES (未来への歩み)

会社概要

商号	ヘリオス テクノ ホールディング株式会社 (Helios Techno Holding Co., Ltd.)
本社所在地	〒103-0002 東京都中央区日本橋馬喰町1-11-10
ホームページ	https://www.heliostec-hd.co.jp
設立	1976年10月
資本金	2,133百万円
証券取引所	東京証券取引所 スタンダード市場(証券コード:6927)
従業員数	15名(2025年3月31日現在 / 連結286名)
代表者	代表取締役社長 佐藤 良久
事業内容	関係会社の経営管理、コンサルティング並びにそれに付随する業務

ヘリオス テクノ ホールディング株式会社

ヘリオス テクノ インベストメンツ株式会社(投資支援)

製造装置事業

フェニックス電機株式会社
ナカンテクノ株式会社
株式会社リードテック
株式会社テクノ工房

ランプ事業

フェニックス電機株式会社
株式会社ルクス

当社グループの価値創造の歩み

——映像と光の進化とともに製造装置事業とランプ事業の両輪で成長

- 兵庫県姫路市で創業(1976)
- 店頭市場に登録(1989)
- 会社更生手続開始申立(1995)

- ランプ事業拡大(プロジェクター用など)
- 製造装置事業に参入、LCD配向膜印刷装置を展開
- JASDAQに上場(2002)
- 東証2部に上場(2005)
- 東証1部に指定替え(2006)

- 持株会社体制(ヘリオス テクノホールディング)へ移行(2009)
- 海外展開強化(海外パネルメーカーへの納入拡大)

- ランプ事業は光源技術を活かした付加価値の創造を追求
- 製造装置事業は半導体関連向け装置等への開発及び事業化を推進
- 東証スタンダード市場に移行(2022)

1970～1990年代

2000年代

2010年代

2020年代～

(創業期)

(成長期)

1976

フェニックス電機(株)

2009 商号変更

ヘリオス テクノ ホールディング(株)

持分譲受

2009

フェニックス電機(株)(現連結子会社)

2009

ナカンテクノ(株)(現連結子会社)

2025

新設

ヘリオス テクノ
インベストメンツ(株)
(現連結子会社)

1995

(株)ルクス(現連結子会社)

2009

株式売却

2025

持分譲受

(株)テクノ工房
(現非連結子会社)

持分譲受

2016

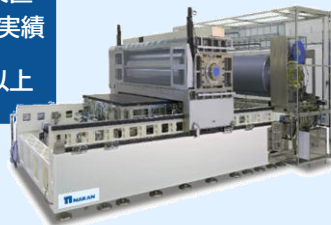
(株)リードテック(現連結子会社)

当社グループの強み

製造装置事業

配向膜印刷装置
世界での納入実績

800台以上



ニッチ × 最高峰

LCDの主要工程である配向膜形成を「印刷」で実現する装置等において、圧倒的な世界トップシェア



装置から部品や保守まで
横断的に対応できる
グループ一貫体制

顧客の様々な要望や課題解決
(メンテナンス・改造まで)に
当社グループ横断で対応可能

小回りが利く
意思決定が早い組織

お客様のニーズに沿った“小ロット・個別最適”
案件にも機動的に対応できる組織



カスタム光源 × 開発

開発段階の設計から評価まで伴走し、
オーダーメイドによる個別製品の
ビジネスモデル



ランプ事業

液晶パネルの製造工程と当社グループ製品の役割

高精細化の要、競争力の源泉となるカラーフィルター(CF)露光と配向膜塗布(CF工程/セル工程)で欠かせない存在

STEP 1

ガラス基板処理

- 大型ガラスを洗浄・カットし基材を準備

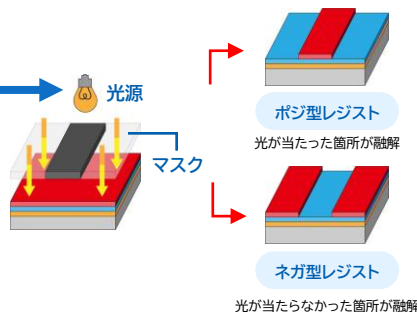
MLS装置
(当社グループ製品)



STEP2

① アレイ工程 (TFT基板形成) ② CF工程 (カラーフィルター形成)

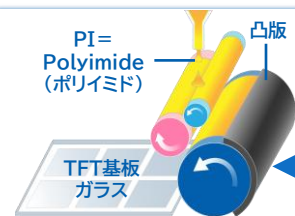
- 低消費電力化のカギとなる工程
- ① 露光・エッチングで薄膜トランジスタ(TFT)や配線を形成
- ② 露光装置によりカラーフィルターのRGBをパターンニング



STEP3

セル工程

- TFT基板にフレキシ印刷機による均一な印刷で、高精細パネルの配向膜を形成
- カラーフィルター基板とTFT基板を貼り合わせ
- 液晶を注入し、画素を制御できる状態に

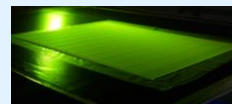


STEP4

モジュール工程

- バックライト、ドライバIC、配線基板を実装
- 映像信号を液晶に伝えるシステムを構築

NSC版
(当社グループ製品)

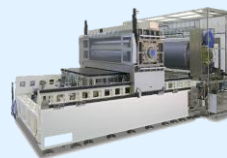


STEP5

組立・検査

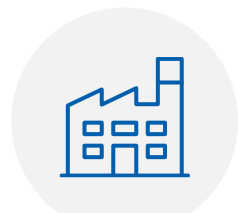
- 外装、回路、スピーカー等を組み込み
- 厳格な画質・耐久検査を経て出荷

フレキシ印刷機
(当社グループ製品)



事業セグメント/製造装置事業

- フレキシ印刷機(LCD生産ラインの配向膜塗布工程用)、インクジェット印刷機等、製造装置の開発・製造・販売
- CF露光装置用光源ユニット、半導体製造装置向けのウェハ研磨機・石英ガラス製品の開発・製造(加工)・販売



サプライヤー

原材料メーカー
部品メーカー
委託加工業者 等

部品
調達

製造装置事業

ナカンテクノ(株)



各種印刷装置や半導体
ウェハ研磨機等の製造・
販売・メンテナンス

フェニックス電機(株)



CF露光装置用光源
ユニットの製造・販売

(株)リードテック



LCD・各種製造装置
等の製造・販売

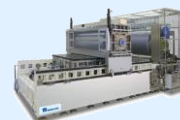
※LCD:液晶ディスプレイ(Liquid Crystal Display)

(株)テクノ工房



半導体製造装置向け石英ガラス
製品の製造(加工)・販売

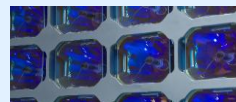
製造・販売



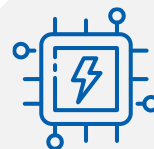
フレキシ印刷機



インクジェット印刷機



CF露光装置用光源ユニット



顧客

液晶パネルメーカー
大手電機メーカー
半導体製造装置メーカー
等

事業セグメント/ランプ事業

- CF露光装置用光源等の産業用ランプ、一般照明用ハロゲンランプ、及びLEDランプ等の製造・販売
- 光源ランプの開発(お客様の新製品開発の初期段階から参画し、設計・試作・テスト・評価を繰り返しながら製品化)

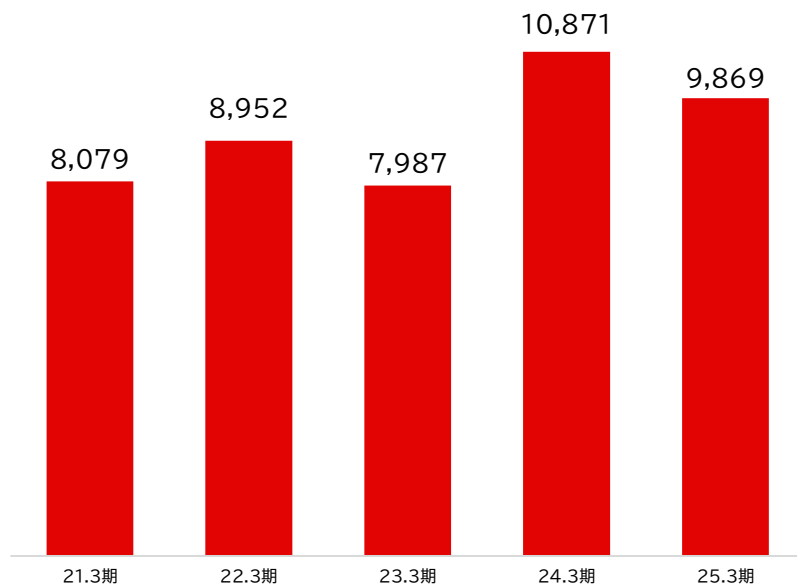


業績推移

主要顧客の設備投資計画の動向により、業績は一定幅で変動するも、売上・利益ともに安定かつ堅調に推移

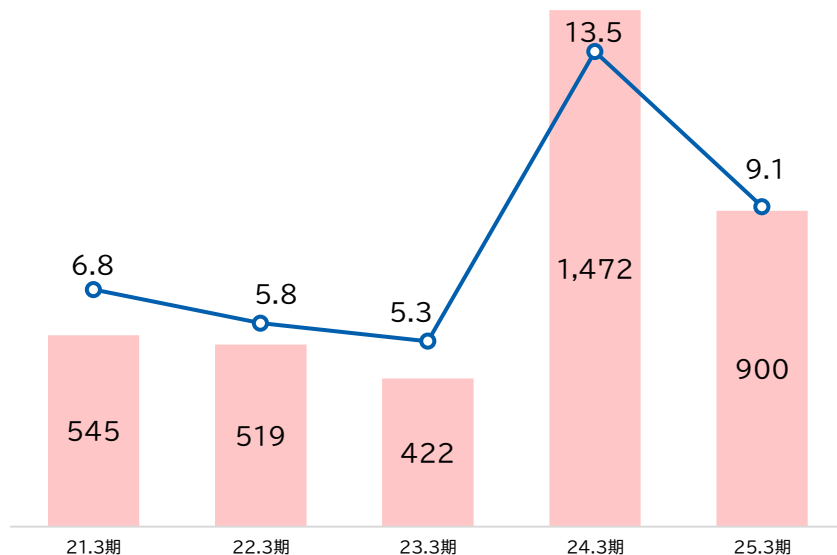
売上高

(百万円)



営業利益 / 営業利益率

(百万円 / %)





02 2026年3月期第2四半期決算概要

01

03

04

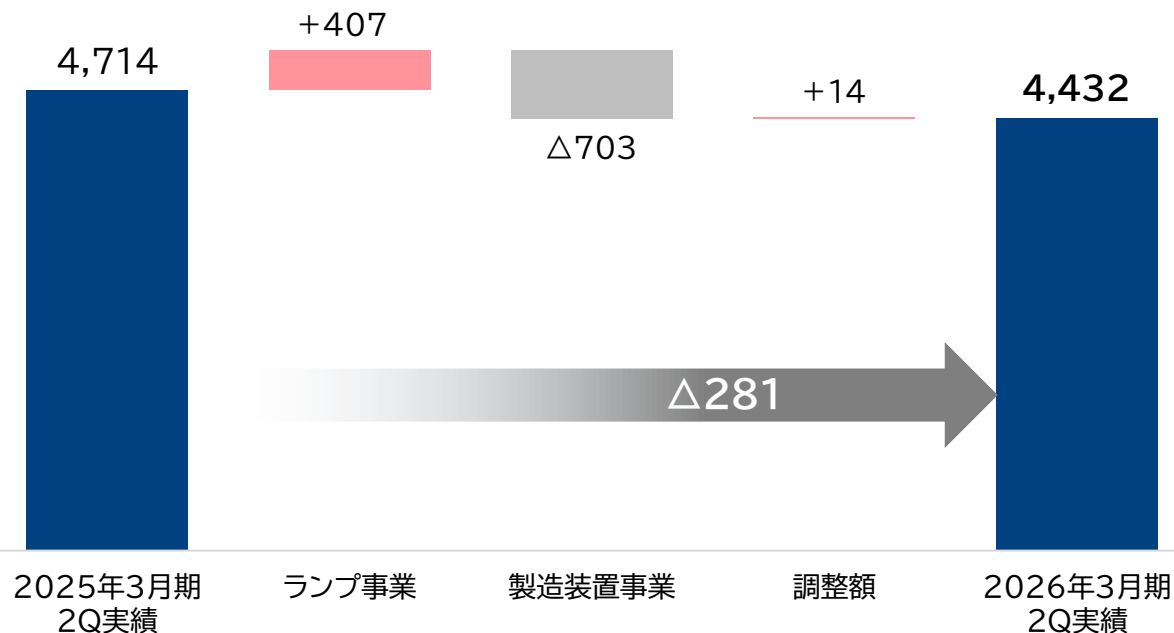
2026年3月期第2四半期 連結業績

- 配向膜印刷装置の一部検収が下期に後倒しになった影響等から減収
- 利益面では、効率的な経費運営等の取り組みが奏功し、予想対比で増益

単位:百万円	2025年3月期 第2四半期 実績	2026年3月期 第2四半期 予想	2026年3月期 第2四半期 実績	前年同期比		業績予想比	
				増減額	増減率	増減額	増減率
売上高	4,714	4,700	4,432	△281	△6.0%	△267	△5.7%
営業利益	441	△40	249	△192	△43.6%	+289	—
営業利益率	9.4%	—	5.6%	△3.8Pt	—	—	—
経常利益	451	50	341	△109	△24.3%	+291	+583.8%
親会社株主に帰属する 中間純利益	350	30	247	△102	△29.4%	+217	+725.0%

連結売上高増減要因

(百万円)



ランプ事業(+407)

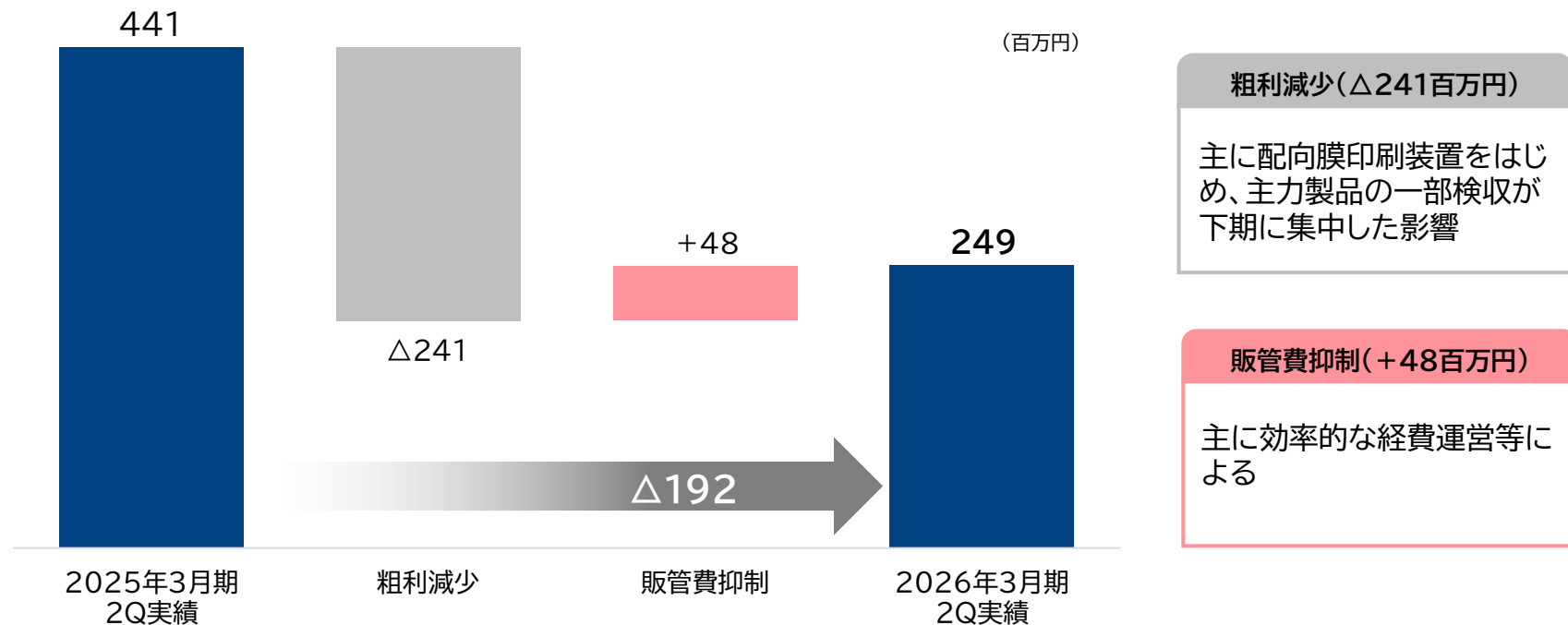
MLSランプの販売拡大により、上期では前年同期比で増収

製造装置事業(△703)

配向膜印刷装置における一部検収の後倒しの影響等により、上期では前年同期比で減収

※調整額:セグメント間の内部取引

連結営業利益増減要因



セグメント別業績

製造装置事業

配向膜印刷装置の一部検収の後倒し等が生じたため、減収減益

ランプ事業

MLSランプの販売好調等により、増収増益

(百万円)	売上高				セグメント利益			
	2025年 3月期 第2四半期	2026年 3月期 第2四半期	前年同期比		2025年 3月期 第2四半期	2026年 3月期 第2四半期	前年同期比	
			増減額	増減率			増減額	増減率
製造装置事業	3,889	3,185	△703	△18.1%	808	338	△470	△58.2%
ランプ事業	854	1,262	+407	+47.7%	△5	199	+204	—
調整額	△29	△15	+14	—	△361	△288	+73	—
合計	4,714	4,432	△281	△6.0%	441	249	△192	△43.6%

連結貸借対照表

総資産

主に棚卸資産や現預金の増加により増加

負債

主に買掛債務や契約負債の増加により増加

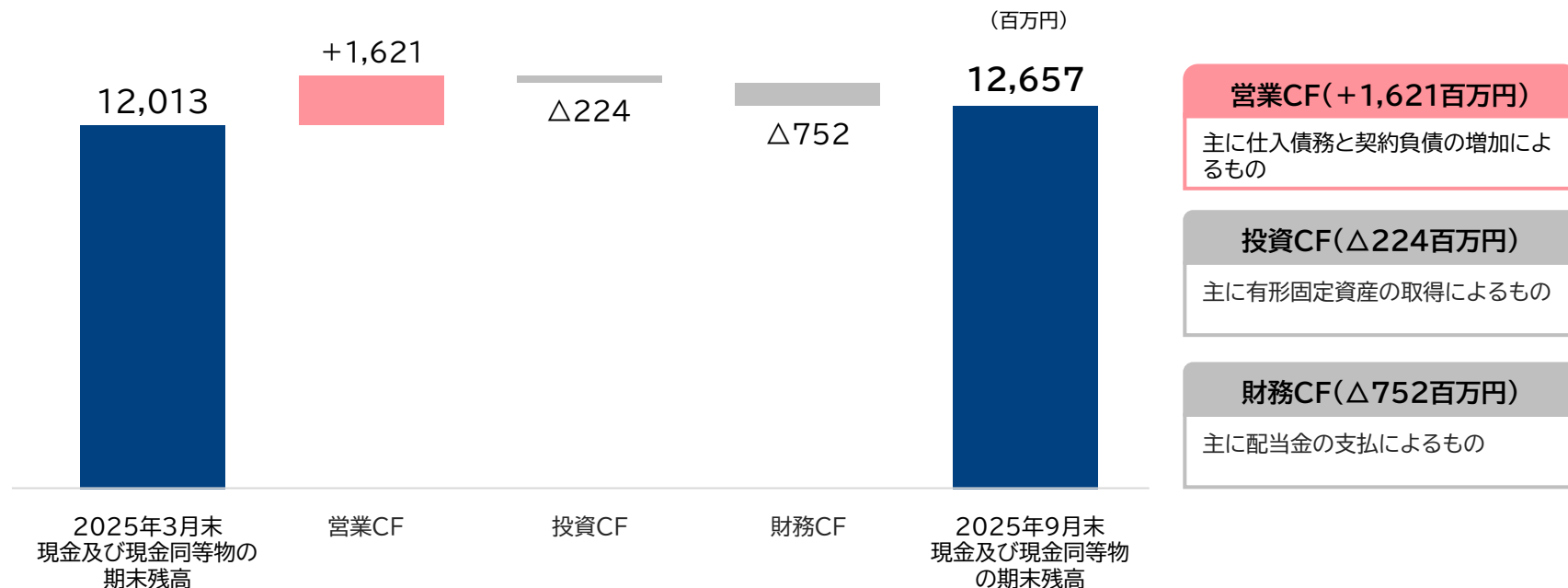
純資産

主に剰余金の配当により減少

(百万円)	2025年3月期 期末	2026年3月期 第2四半期 期末	増減額
流動資産	18,022	20,320	+2,298
現預金	12,013	12,657	+644
売上債権	2,647	2,429	△218
棚卸資産	2,627	4,123	+1,495
その他	732	1,109	+376
固定資産	3,147	3,574	+426
総資産	21,169	23,894	+2,725
負債合計	5,062	8,048	+2,986
買掛債務	884	2,197	+1,313
有利子負債	108	99	△8
その他	4,069	5,751	+1,681
純資産	16,106	15,845	△261
負債純資産合計	21,169	23,894	2,725

連結キャッシュ・フロー

現金及び現金同等物は前連結会計年度末に比べ、6億44百万円増加





03 2026年3月期業績予想

01

02

04

事業環境の見通し

製造装置事業、ランプ事業のいずれも販売見通しが良化

景況感(前期対比)

事業環境の見通し

当社取り組み

製造装置事業



- フレキシ印刷機は販売好調が継続
- メンテナンス事業や版事業の販売も伸長

- 顧客のニーズに応えた技術の開発を継続し、顧客満足度を高める
- 半導体関連の新規事業の実用化に向けた課題解決に取り組む

ランプ事業



- LEDの特性および補助金政策の一過性要因から、一般照明はやや苦戦
- CF露光装置用光源ランプの販売は引き続き好調

当社が保有する技術を活かし、市場ニーズに合わせた拡販を継続推進

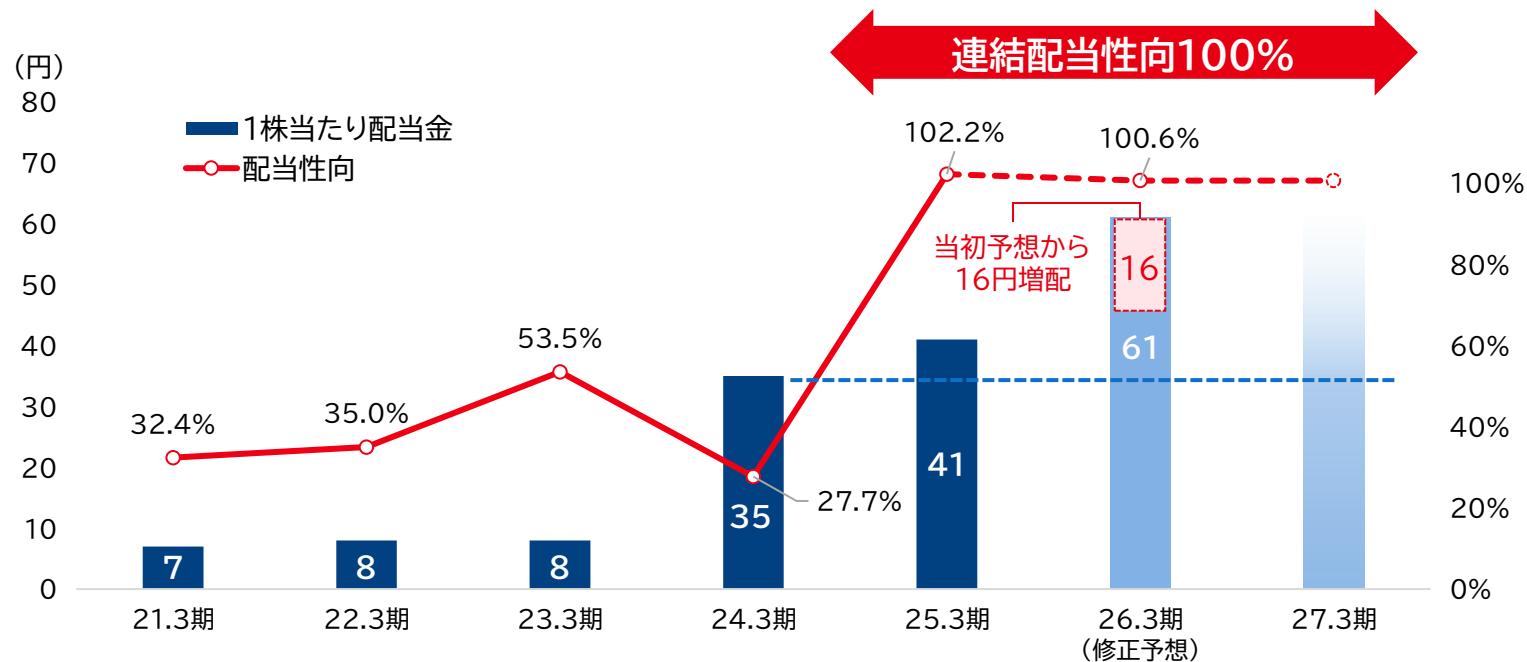
2026年3月期通期 連結業績予想

- 配向膜印刷装置の一部検収の後倒しがあったものの、露光装置用光源ユニット用ランプにおいて引き続き計画を上回る需要があった等により、売上高は概ね堅調に推移
- 効率的な経費運営等の取り組みにより、利益は増益

(百万円)	2025年3月期 実績	2026年3月期 当初予想 (2025/5/9)	2026年3月期 修正予想 (2025/11/6)	2025年3月期実績/ 2026年3月期修正予想 (2025/11/6)	
				増減額	増減率
売上高	9,869	14,000	14,000	+4,130	41.8%
営業利益	900	1,100	1,400	+499	55.5%
営業利益率	9.1%	7.9%	10.0%	+0.9Pt	—
経常利益	944	1,200	1,500	+555	58.8%
親会社株主に帰属する 当期純利益	728	800	1,100	+371	51.0%

株主還元

2025年3月期から2027年3月期の3会計年度は、株主還元強化と自己資本充実とのバランスの観点から連結配当性向100%を目標に設定。1株当たり年間配当金の下限は35円





04 今後の成長戦略

01

02

03

事業環境認識

AIとテクノロジーの急速な進化やグローバル化の進展に生じた機会とリスクを捉え、持続的な成長と企業価値の向上を目指していく

想定されるリスク	財務影響度
中国をはじめとするアジア地域を中心とした顧客の投資サイクルに依存	高
地政学リスクによるサプライチェーンの不安定化	中
技術トレンドの移り変わりの速さ(表示デバイスの進化や半導体製造装置の高難度など)	中
経営資源の制約(人材確保等)	低

想定される機会	財務影響度
液晶パネルメーカーの新規設備投資の計画実現	高
デジタル・IT化の加速に伴い、半導体装置・部材における新たな付加価値への需要が拡大	中
医療・産業用途での「光技術」需要の堅調な需要と成長	中
新ディスプレイ技術や次世代装置への展開余地	中
省資源、省エネ製品の需要の高まり	低

当社の取り組み

- 製品価格の適正化と物流の最適化を図り、サプライチェーンにおける戦略パートナーの選定ならびにグローバル生産体制の確立
- 技術イノベーションの推進
- エネルギー問題や災害対策などに資する製品・サービスの創出
- 社内DXの推進による生産効率性の向上

今後の成長戦略

事業ポートフォリオの拡大により、すべてのステークホルダーとともに、
持続的な成長と企業価値の向上を目指していく

変革と創造

Transformation to the next stage

1

既存事業の成長と発展

- ・顧客ニーズに応えた既存製品の改良を進め、競争優位性を向上
- ・既存市場に投入する新製品の研究開発を強化し、製品化を加速

2

新規事業の創出による第3の柱の確立

- ・「ものづくり」関連企業のM&A等を通じて(最適なリソース配分により)新たな価値創造モデルを構築
- ・収益源の多様化を図り、持続的な成長を実現

3

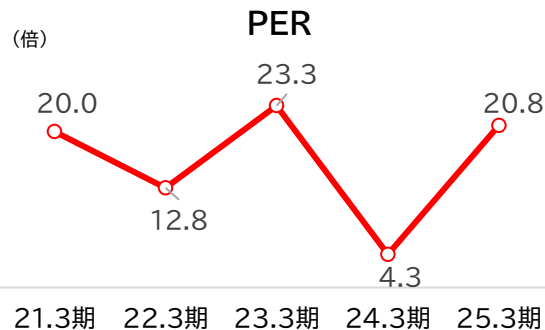
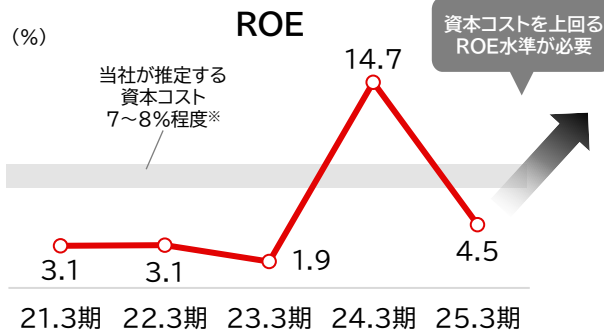
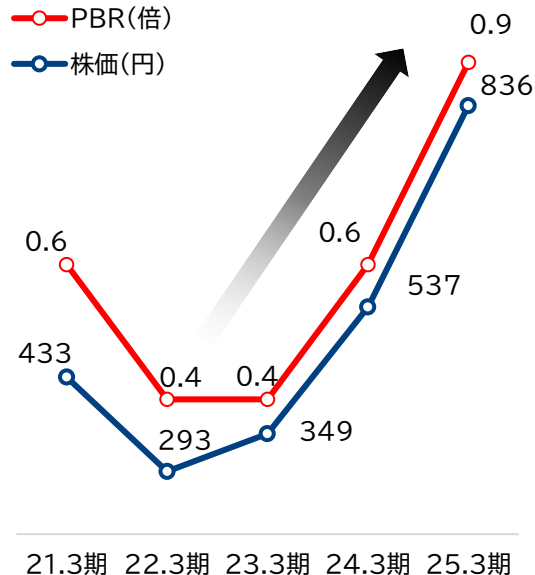
企業価値向上の取り組み加速

- ・高付加価値製品への経営資源の集中による収益力の向上
- ・経営に重大な影響を及ぼすリスクに対するマネジメント強化

株価関連指標の現状と企業価値向上に向けた取り組み

PBRはここ4期で0.5P改善。収益性向上などによるROEの改善がPBR1倍超への鍵

PBRと株価の推移



今後の検討課題

- 注力(高付加価値)事業や新規事業への積極的な投資
- 事業構造改革の推進
- 最適資本構成を見据えた財務・資本戦略の確立
- 人的資本への投資
- IR活動の強化

Rising Sun Management Ltd.(RSM)との業務提携

ダルトン・グループのノウハウとネットワークを活用し、M&Aを加速

Helios Techno



RSM

提携の概要・目的

- 米国の投資運用会社グループのダルトン・グループを代表する RSMと、業務提携契約を2025年5月14日に締結
- 中長期的な企業価値向上を加速するため、RSMからの取締役派遣およびM&Aを活用し、新規事業創出と事業ポートフォリオの拡大を図る

提携のスキーム

- RSMのハンズオンでの経営参画を通じたM&Aに関する戦略立案及び実行支援
- 当社事業ポートフォリオ拡大に向けたRSMとの施策推進
- 当社100%出資による子会社(投資支援業務)の設立

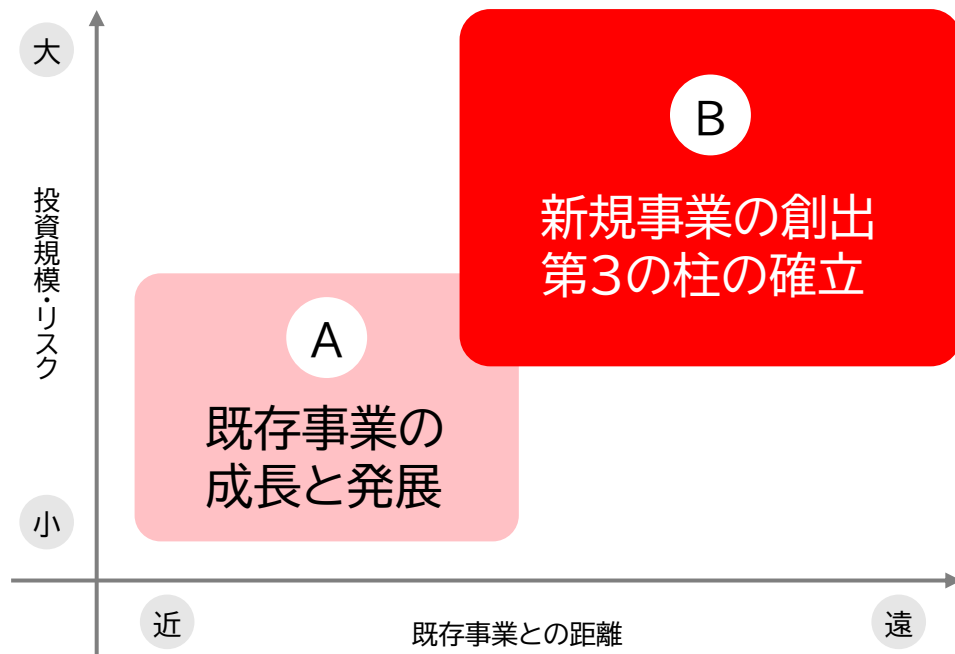
提携を通じた期待効果

- M&Aの機会創出と実行力の強化
- ポートフォリオの多様化と収益安定性の向上
- 意思決定の質とスピードの向上

外部パートナーの知見を取り込み、長期的な企業価値向上を図る

M&A戦略

「既存事業の成長と発展」と「新規事業の創出」の双方に寄与するM&Aを推進



B

A、Bともに主なターゲットは
ものづくり企業（メーカー）

A

B

ものづくりをキーワードに、既存事業
とのシナジーにこだわらない分野へ
の進出を目指す

A

当社の得意とする既存事業と親和性
が高く、シナジーが見込める企業

ディスクレマー

本資料は、当社の決算説明を目的として作成したものであり、投資勧誘を目的とするものではありません。本資料に記載された業績予想、見通し、計画、その他将来に関する記述(以下「将来予想情報」)は、当社が作成時点で入手可能な情報に基づくものであり、実際の業績は様々な要因によりこれらと異なる場合があります。なお、当社は、本資料に記載された情報の正確性、完全性、適時性を保証するものではなく、将来予想情報については、当社が必要と判断した場合に予告なく変更することがあります。投資判断を行う際は、当社が提出した有価証券報告書その他公表資料を必ずご確認ください。